

主な投資計画総括表

基本方針		番号	課題 (危険性・可能性)	取組方針	主な投資計画	令和6年度末の見込到達点	経営戦略2025' 令和17年度末	
							数量等	投資額
予防保全への転換	・破損等する前に危険度に応じて修繕改築を行う「予防保全型管理」を順次導入 ・事故の発生抑制及びコストの縮減・平準化	1	・山崎下水道終末処理場の機器が老朽化により、突発故障する。	・ストックマネジメント手法を活用した計画的な予防保全と事業費の平準化	・下水道終末処理場ストックマネジメント事業	・ストックマネジメント全体計画、山崎処理場ストックマネジメント詳細計画策定 ・山崎下水道終末処理場再構築した主要設備の台数 0台	・山崎下水道終末処理場再構築した主要設備の台数 121台 ・雨水調整池再構築したポンプの台数 22台	約379億円
		2	・污水管渠が老朽化により、破損等し、大雨時の浸入水に伴い溢水や道路陥没が発生する。	・修繕改築計画の更新 ・計画的かつ効率的な工事の実施	・緊急輸送路の污水管修繕改築事業	・緊急輸送路の修繕改築工事 延長L=0.4km	・緊急輸送路の修繕改築工事 延長 L=0.8km	約1.2億円
		3			・民間開発団地の污水管修繕改築事業	・民間開発団地の污水管87kmのスクリーニング調査結果に基づいた、詳細カメラ調査26kmの実施	・民間開発団地の修繕改築工事 延長 L=0.6km	約1.7億円
		4	・雨水管渠や雨水排水施設が老朽化により、破損等し、道路陥没や護岸倒壊が発生する。	・緊急輸送路、雨水幹線の修繕改築計画の策定 ・計画的かつ効率的な工事の実施	・雨水管・雨水調整池の修繕改築事業	・令和4年度 修繕改築計画策定 ・令和5年度 実施設計 ・令和6年度 修繕改築工事	・雨水幹線の修繕改築工事 延長 L=0.5km	約1.6億円
		5	・旧規格のマンホール蓋が老朽化により、破損や摩耗、浮上し、交通事故が発生する。	・重要な污水幹線におけるマンホール蓋の調査 ・修繕改築計画の策定 ・計画的かつ効率的な工事の実施	・重要な污水幹線のマンホール蓋修繕改築事業	・令和3年度 鎌倉処理区のⅠ期区域の緊急輸送路の修繕改築工事完了	・重要な污水幹線、民間開発団地内のマンホール蓋の修繕改築工事 N=115基	約0.9億円
下水道施設の脆弱性の解消	・災害時にも機能する下水道の整備 ・雨水施設の整備、修繕・改築	6	・地震に伴う液状化により、マンホールが浮上し、重要な幹線の機能が低下する。	・鎌倉市下水道総合地震対策計画(第Ⅲ期)の策定 ・計画的かつ効率的な工事の実施	・重要な污水幹線の(マンホール浮上対策、可とう継手)耐震化事業	・令和4年度 非開削による緊急輸送路の耐震化完了	・下水道終末処理場に直結する污水幹線の一部で液状化区域にあるマンホール浮上対策、可とう継手工事 N=60基	約1.2億円
		7	・地震や津波浸水によって中継ポンプ場が機能停止することにより、汚水が溢水し公衆衛生が悪化する。 ・地震により七里ガ浜下水道終末処理場が倒壊する。	・鎌倉処理区と大船処理区を統合し山崎下水道終末処理場に一元化 ・6箇所の中継ポンプ場を廃止し自然流下により送水	・持続型下水道再整備事業	・山崎下水道終末処理場までのルート検討や工法の検討に必要な地質調査を実施 ・処理区統合に伴う汚水量の増加に対応するため、山崎下水道終末処理場の概略検討を開始	・下水道終末処理場を一元化する幹線の約5割が施工済 ・山崎下水道終末処理場の増設が一部(C系列)完成	約380億円
		8		・持続型下水道再整備事業を考慮した耐震化の実施	・七里ガ浜下水道終末処理場耐震化事業	・過去に行った管理棟の耐震診断をもとに、管理棟地下部分である水処理設備棟の耐震診断を実施	・管理棟延床面積約1,988㎡、B系水処理設備棟の一部、延床面積約4,012㎡について耐震化設計及び耐震化工事	約12億円
		9	・地震により山崎下水道終末処理場での下水処理が停止する。	・ポンプ、沈殿池、消毒設備に関連する建物を中心とした耐震化の実施	・山崎下水道終末処理場耐震化事業	・耐震診断を順次実施 ・非線形解析を行い、補強箇所の低減検討を実施	・管理棟・沈砂池ポンプ棟をはじめとした各施設延床面積24,438㎡の耐震化設計及び工事を、ストックマネジメント計画と合わせて実施	約124億円